視　察　報　告　書

報告者氏名　菅　野　浩　考　㊞

1.　市内視察

2.　期　　日　平成３０年３月２７日（火）

3.　視察地及び調査事項

視察地および調査事項は、以下のとおりである。

日程	視察先	調査事項
３月２７日（火）	宮園保育園及び幼稚園	・ 本園の家庭教育指導について
同日	思井の森（熊野神社周辺）	・ 生物多様性ながれやま戦略等

1. 宮園保育園及び幼稚園

〈所感等〉

宮園保育園及び幼稚園の家庭教育指導に関する調査を通じ、以下３点が重要であると感じた。

(1)社会は家庭の応援団。

家庭教育は、すべての教育の出発点とされている。家族のふれ合いを通して、例えば、毎日の生活の一場面で、園児の家庭では、どのように過ごされているのか、いつも家族で「おはよう」「ただいま」「おやすみ」などのあいさつを習慣にしている、早寝早起きを心がけている、朝ごはんは家族一緒に食べる、学校での出来事などについて、子供とよく話をする、テレビやゲームの時間などのルールを、親子で話し合って決めている等、子供が、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけていく上で重要な役割を果たしている。

家庭は、子供たちが最も身近に接する社会であり、常に子供の心のよりどころとなるものである。今回の視察先である宮園幼稚園と保育園では、家庭教育を基礎（土台）とし、製作活動、音遊び、集団ゲーム遊び、言葉遊び等を通して一人ひとりの子ども達の特性を伸ばし、目当てが達成できる保育に力を入れていることを認識した。

(2)家庭の教育は個々の家庭の責任。他人に頼れない。関係ない。と思っていないか。

子供の教育の第一義的責任は親が持つものであり、尊重されなければならない。しかしながら、子供は家庭の中だけで育つわけではない。学校や地域の様々な人たちと関わり、見守られながら成長していく。かつては、親以外にも多くの大人が子供に接することで、それらが全体として家庭教育を担っていた。また親同士や地域の人々とのつながりによって、親自身も学び、親子で育ち合う中で、子供たちを「地域の子供」として見守り、育てるなど、地域において子育てや家庭教育を支えるしくみや環境があった。昨今では、都市化や核家族化、少子化、雇用環境の変化などにより、こうした地縁的なつながりや人との関係が希薄化することによる親が身近な人から子育ての仕方を学ぶ機会の減少や、子育ての悩みなど気軽に相談できる人がそばにいない等、親や家庭を取り巻く状況や、子育てを支える環境も大きく変化している。また、仕事と子育ての両立の難しさなど、様々な要因を背景として、家庭の孤立化や、忙しくて時間的精神的ゆとりを持てない状況、さらには児童虐待など、家庭をめぐる問題も深刻化してきている。こうした状況は、決して個々の家庭だけの問題ではない。保護者が安心して子育てや家庭教育ができるよう、改めて、家庭教育の大切さを社会全体で考え、支援していくことが大切ではないかと感じた。

(3)社会全体で家庭教育を支え合う。

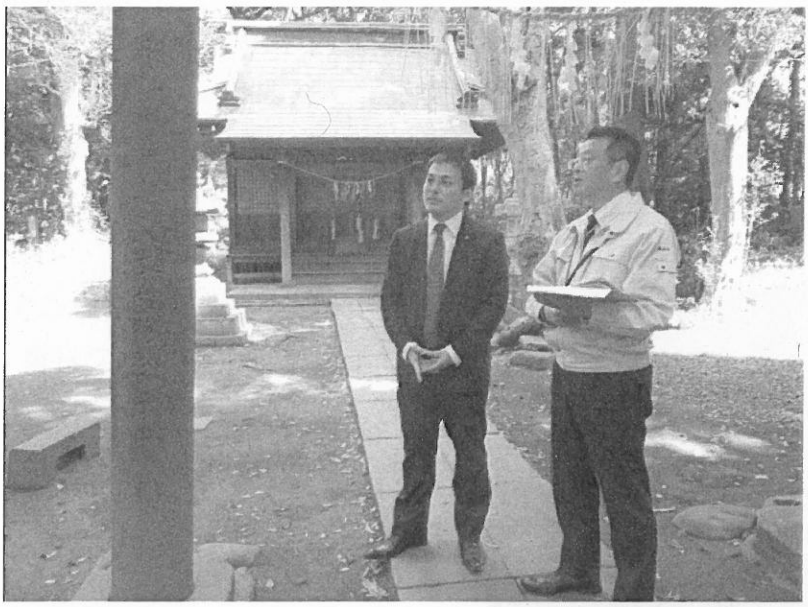
家庭教育はこれからの未来を支える子供たちへの大切な贈り物である。そして、子供を育てることは、未来の日本を支える人材を育てる重要な営みである。

保護者の方々の頑張りに対して、地域社会や学校、行政、企業等も力を合わせ、子育て家庭の「支え」となり、社会全体で子育てや家庭教育を応援していくことが求められていると改めて感じた。

2. 思井の森（熊野神社周辺）整備状況　※生物多様性ながれやま戦略

〈所感等〉

現地にて地元の鰭ケ崎や宮園、思井、西平井、前平井、後平井地域などの地域にある、みどりの必要性を再三に渡り指摘し、訴えてきた。



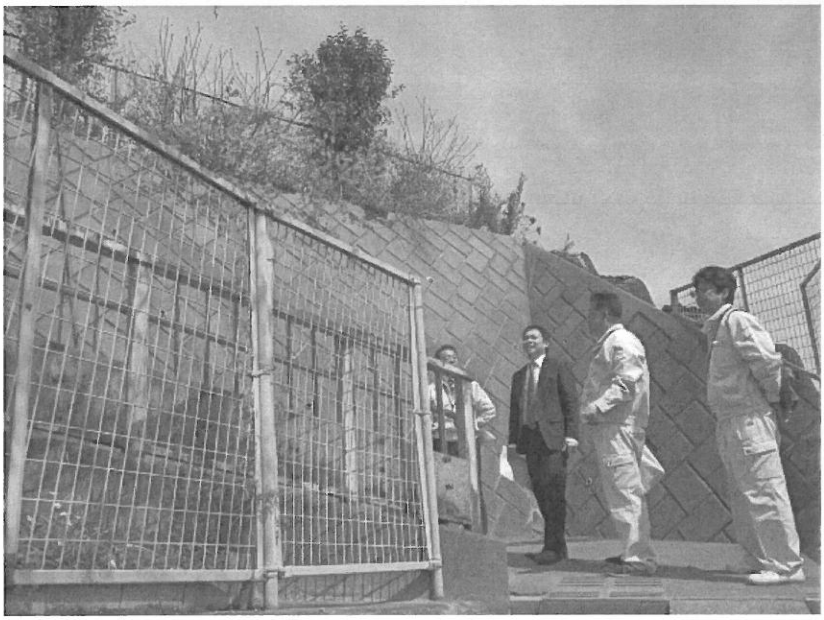
（写真左：熊野神社境内にて。都市計画部長より、思井の森整備計画の現状について説明を受ける。その都度、緑を残すよう指摘した）

（写真右：三本松付近にて。三本松付近の区画整理事業の報告を受け、今後森林を斜面や古墳跡地等に増殖するよう厳しく指摘した）

この度「生物多様性ながれやま戦略」に熊野神社周辺の森を重点地域として新たに盛り込む事になった。指定する熊野神社（思井）周辺の森を含む緑地は、オオタカを初め様々な動植物が生息する貴重な緑地で、如何にして緑を残すことが出来ないか、長期に渡り取り組んできた。井崎市長は、市民の方々からご提言頂いた思いを計画にしっかり盛り込み、事業当初より極力緑地を残す土地利用計画とされていたが、更に「斜面地の宅地化は事業費の増加や事業期間の長期化も懸念されること」と理由を付け、県知事との意見交換会で、更なる緑地保全の実現を提言された。その結果、県から「経費削減、早期完成に向け、流山市が鰭ケ崎・思井地区で行った緑地保存や宅地の大街区化などの軽量化を参考にしっかりと取り組んでいく。」との回答を得た。

事業費についても軽量化による縮減や新たな国の交付事業の導入も検討していく必要が

あるため、平成34年度の事業完了に向け、少しでも市の負担(私たちの税金) が軽減されるよう、引き続き、市民経済常任委員長として市へ協議、調整するよう強く申し入れ、熊野神社周辺のみどりを地権者の意見を尊重した上で話し合い、 流山市のみどりを残して行く方向に全力で動いていく。



(写真左:古墳跡地横の階段にて。三本松階段付近が暗いので対策を取るよう指摘したところ、街灯が取り付けられる事になった)

これからも地元の議員として思井の森を始めとした流山市のみどりを守っていくよう市へ要望していく。

以　上